

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 5 部門第 2 区分  
【発行日】令和 6 年 5 月 30 日(2024.5.30)

【公開番号】特開 2023-64807(P2023-64807A)  
【公開日】令和 5 年 5 月 12 日(2023.5.12)  
【年通号数】公開公報(特許)2023-087  
【出願番号】特願 2021-175159(P2021-175159)  
【国際特許分類】

F 1 6 D 43/02(2006.01)

10

【F I】

F 1 6 D 43/02

【手続補正書】

【提出日】令和 6 年 5 月 22 日(2024.5.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【0045】

それぞれの押圧面 41 は、係合子 5 のその他の部分よりも被押圧面 23 に対する摩擦係数が大きい表面性状を有することが好ましい。又、それぞれの押圧面 41 は、係合子 5 のその他の部分と一体に構成することもできるし、係合子 5 のその他の部分に、貼着や接着等により固定された摩擦材の表面に形成することもできる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【0065】

これに対し、入力部材 4 の回転に伴って 1 対の係合子 5 に作用する 1 対の押圧面 41 を被押圧面 23 に近づく方向の力  $F$  が、1 対の力付与部材 6 が 1 対の係合子 5 に付与する力  $f$  以下である場合、1 対の力付与部材 6 の弾力によって形成される被押圧面 23 と 1 対の押圧面 41 との間の隙間 79 に基づいて、入力部材 4 及び / 又は出力部材 3 を空転させる。このように、本例の逆入力遮断クラッチ 1 は、入力部材 4 の回転及び 1 対の力付与部材 6 の弾力によって制御される 1 対の係合子 5 の遠近方向の移動に基づき、入力部材 4 から出力部材 3 に回転トルクが伝達可能になるロック状態と、入力部材 4 と出力部材 3 との間での回転トルクの伝達を遮断するフリー状態とを切り替えることができる。したがって、逆入力遮断クラッチ 1 の装置全体の軸方向寸法を短くできる。

40

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0084

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0084】

1 対のピン 49 は、円柱形状を有し、カム部 30b の短軸方向両側に支持固定されている。具体的には、1 対のピン 49 の基端部(軸方向他側の端部)を、大径軸部 29 の軸方向片側面に開口する圧入孔に内嵌固定することで、1 対のピン 49 を軸本体 48 に支持固定している。これにより、1 対のピン 49 の半部を、カム部 30b のうち、短軸方向両側

50

に配置された１対の第１平坦面部３３の長軸方向中央部から径方向外側に向けて突出させることで、１対の係合凸部４７ａを設けている。

【手続補正４】

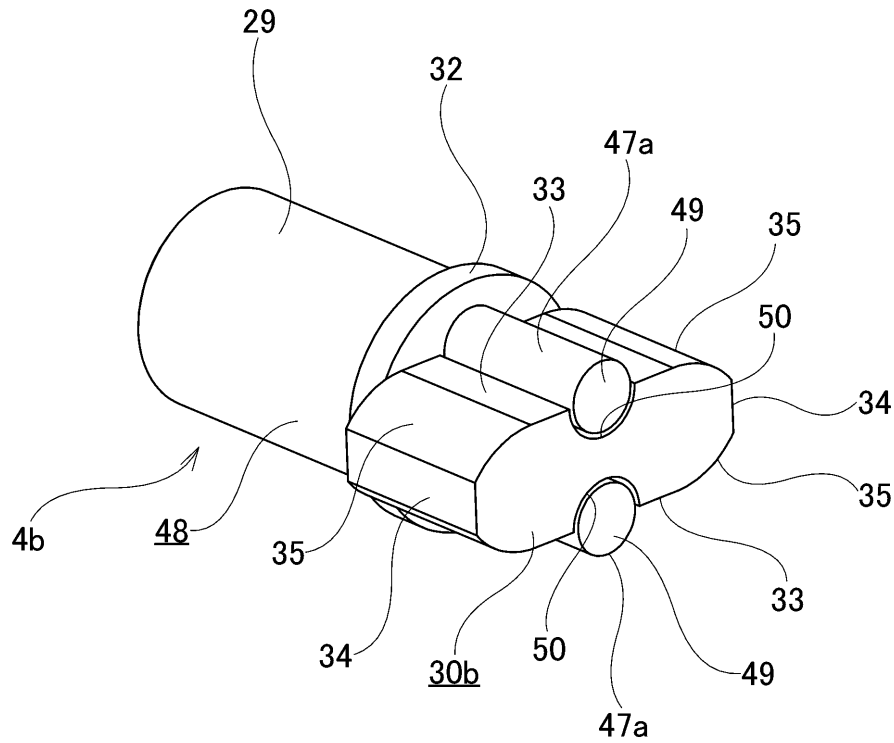
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図２０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図２０】



10

20

30

40

50